



RIKKYO UNIVERSITY

貧困、ホームレス問題の解決策を考察する PBLの必要性と教育実践

後藤広史(立教大学)

本日の報告の骨子

- 自己紹介
- SDGs: 日本における貧困・不平等の実態
- 具体的な教育実践(演習)の例と工夫
 - シラバス
 - 当事者の講演
 - フィールドワーク
- 教育効果
- 今後の課題—PBLの実践に向けて

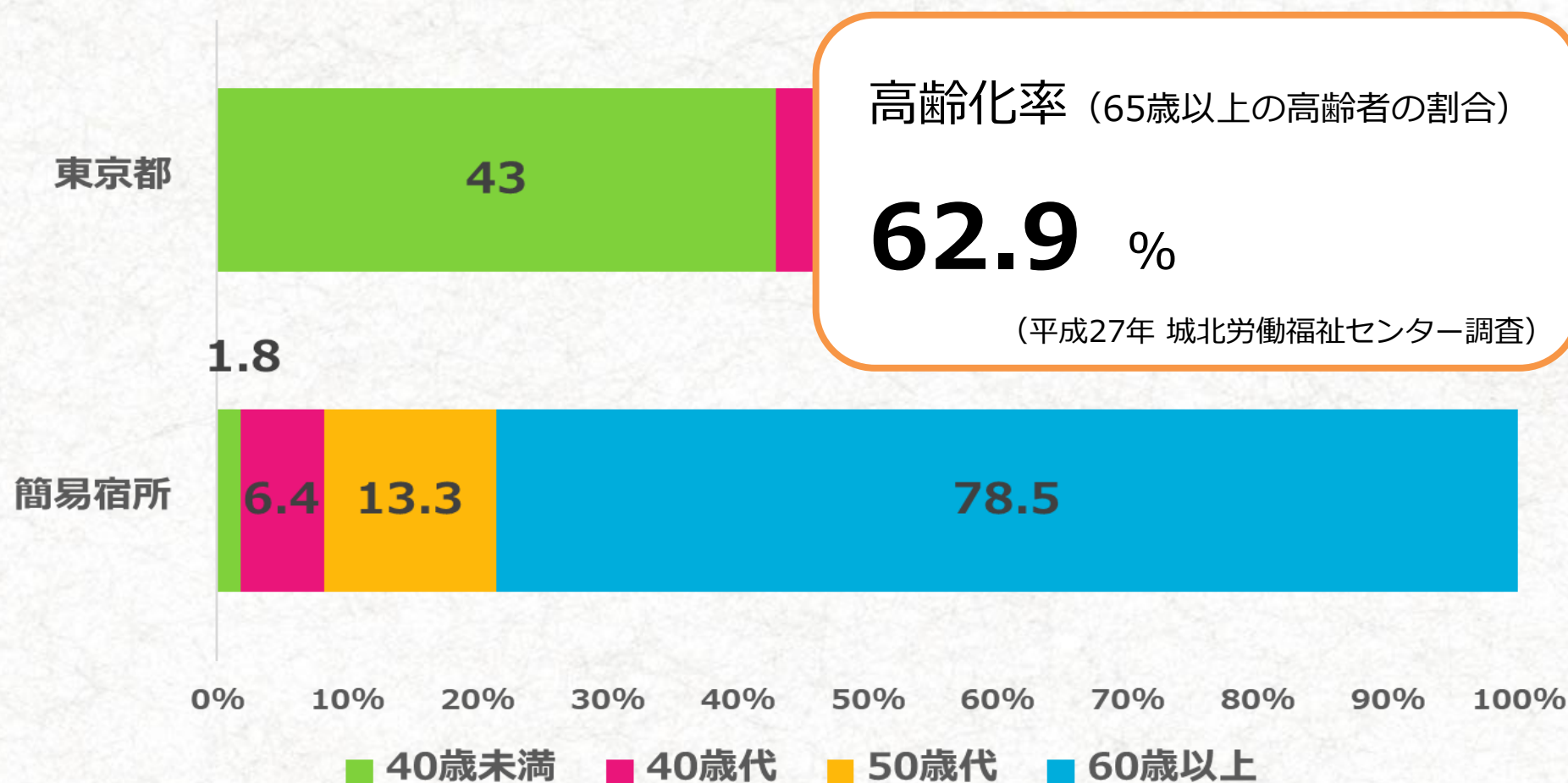
- 目標 1: 貧困をなくそう
- 目標10: 人や国の不平等をなくそう

- 日本における貧困・不平等の例とそのスケール

子ども	ホームレス 状態にある人々	生活保護 受給者
<ul style="list-style-type: none">• 54.6%• 27,288人	<ul style="list-style-type: none">• 4,253人• 約4,000人	<ul style="list-style-type: none">• 1.7%• 51.4%



簡易宿所宿泊者数の年齢構成



演習の目標・目的

- 貧困・社会的排除という概念を理解する。
- 3つのテーマ: ①「ホームレス」、②「子どもの貧困・貧困の世代間連鎖」、③「生活保護制度」)についての基礎的な知識を得るとともに、文献購読／ディスカッションを通して、それらについて自身の見解を持つことができるようになる。
- 当事者による講演・フィールドワークを通し、理論と現実のギャップを認識するとともに、それがなぜ生じるのかを理解する。

演習シラバス(前期)

回	内容	文献
1	授業ガイダンス(演習の進め方)	
2	グループ編成/準備講義:貧困とは何か①(講義)	
3	準備講義:貧困とは何か②/社会的排除とは何か(講義)	
4	フィールドワーク先の紹介・日程調整	
5	ホームレス問題とは何か①講義編/ディスカッション	
6	ホームレス問題とは何か②文献購読/ディスカッション	◎1
7	ホームレス問題とは何か③論文購読/ディスカッション	*1
8	ゲスト講義(*)	
9	子どもの貧困・貧困の世代間連鎖①/ディスカッション	
10	子どもの貧困・貧困の世代間連鎖②文献購読/ディスカッション	◎2
11	子どもの貧困・世代間連鎖③論文購読/ディスカッション	*2
12	生活保護制度①講義/ディスカッション(*)	
13	生活保護制度②文献購読/ディスカッション	◎3
14	生活保護制度③論文購読/ディスカッション(*)	*3
15	提出レポートに基づく総括ディスカッション(レポート提出)	

演習シラバス(後期)

回	内容
1	授業ガイダンス(演習の進め方)
2	グループ編成・発表の仕方／
3	テーマの設定
4	FW・グループ研究
5	
6	グループ研究中間報告
7	FW・グループ研究
8	
9	グループ研究発表①
10	グループ研究発表②
11	グループ研究発表③
12	グループ研究発表④
13	グループ研究発表⑤
14	提出レポートに基づく総括ディスカッション(レポート提出)

取り組みの工夫②

ICTを使ったフィールドワークの可視化



<p>11</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 19:30 つくろい東京ファンド夜回り 	<p>12</p> <p>● (特人厚)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 カフェ潮の路 ● 14:00 特人厚事例報告会 ● 17:30 子ども食堂 (わ・和・輪の会) 	<p>13</p> <p>● (17:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 17:30 子ども食堂勉強会 (わ・和・輪の会) ● 19:00 つながるねっと 	<p>14</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 カフェ潮の路 ● 17:30 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 18:00 こととい子ども食堂 	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会)
<p>18</p> <p>● (17:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 20:00 ひとさじの会 	<p>19</p> <p>● (17:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 カフェ潮の路 ● 17:30 子ども食堂 (わ・和・輪の会) 	<p>20</p> <p>● (17:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 17:30 子ども食堂勉強会 (わ・和・輪の会) ● 19:00 つながるねっと 	<p>21</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 カフェ潮の路 ● 17:30 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 17:30 西田 森 酒井 「わ・和・輪の会」 ● 17:30 池袋子ども食堂 	<p>22</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会)
<p>25</p> <p>● (17:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 19:30 認定NPO法人ビッグイシュー基金とつくろい! 	<p>26</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 カフェ潮の路 ● 17:30 子ども食堂 (わ・和・輪の会) 	<p>27</p> <p>● (19:00~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 17:30 子ども食堂勉強会 (わ・和・輪の会) ● 19:00 つながるねっと 	<p>28</p> <p>● (17:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 カフェ潮の路 ● 17:30 子ども食堂 (わ・和・輪の会) ● 18:00 こととい子ども食堂 	<p>29</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12:00 子ども食堂 (わ・和・輪の会)

前期の取り組みの成果

特に印象に残ったことはホームレスについてです。私はこの授業を受けるまで、路上生活をしている人はどうして働かないのだろう、なぜ生活保護を受給しないのだろうと疑問に思っていて、私自身偏見があったと思います。しかし実際は、働けないという状況があったり、生活保護を受給したくても捕捉性の原理で受給しづらい状況が存在するのだということがわかりました。ホームレス経験のある方から実際にお話を伺うことができたのも印象に残っています。生活保護のありかたを見直し、生活保護やホームレスという状態に負のレッテルが貼られた状況や、社会にある誤った認識や誤解をなくしていく必要性を感じました。

授業で印象的だったことは子どもの貧困についてです。私は子どもの貧困について、世代間連鎖を脱却するために教育制度を改善させるべきだと思っていました。理由は、貧困によって高校や大学に行くことができないために十分な教育を受けられず、安定した職に就くことができないのだと思っていたからです。だからこそ、貧困家庭の子どもであっても、高校や大学に行けるような仕組みを整えるべきだと考えていました。しかし、この考え方は、日本が学歴社会であることを前提とした考え方であり、「大学に行ったほうが安定した職に就ける」「良い大学に入ることが就職に有利につながる」と、私自身の価値観が偏っていたのではないかと気付きました。そして、学歴社会に適応できるようにするのではなく、学歴社会という日本の構造を変えていかなければならないのだとディスカッションを通して感じました。

また、貧困であるために進学を諦めてしまう人も現実としているということを学び、大学という学びの場がお金に余裕がある人のもの(言い方が悪くてすみません)になってしまっていないか、という問題意識も生まれ、大学無償化の条件の緩和や給付型奨学金をさらに普及させていく必要があると感じました。

今後の課題—PBLの実践に向けて RIKKYO UNIVERSITY

- 貧困・社会的排除という概念を理解する。
- 3つのテーマ：①「ホームレス」、②「子どもの貧困・貧困の世代間連鎖」、③「生活保護制度」)についての基礎的な知識を得るとともに、文献購読／ディスカッションを通して、それらについて自身の見解を持つことができるようになる。
- 当事者による講演・フィールドワークを通し、理論と現実のギャップを認識するとともに、それがなぜ生じるのかを理解する。
- 座学・フィールドワークの知見をもとに、貧困、ホームレス問題の解決するための施策・方法について検討し、プレゼンテーションを行う【PBL】

演習シラバス改訂案(後期)

回	内容
1	授業ガイダンス(演習の進め方)
2	グループ編成・発表の仕方／
3	テーマの設定
4	FW・グループ研究
5	
6	グループ研究中間報告
7	FW・グループ研究
8	
9	グループ研究発表①
10	グループ研究発表②
11	グループ研究発表③
12	グループ研究発表④
13	グループ研究発表⑤
14	提出レポートに基づく総括ディスカッション(レポート提出)

PBL